

桃・メロン 大人気

～黒石市と合同で即売会～

黒石地区もも栽培研究会（倉内信一会長）は8月22日と23日、黒石市と合同で桃とメロンの即売会「黒石市フルーツ・ベジタブル・フェスティバル」を開いた。

即売会では当J A管内で栽培された桃「まだか」と同市南中野地区で栽培されたメロン「黄美香」などを箱売りバラ売りで販売。来場者は試食で味を確認し購入していた。倉内会長は、桃のおいしい食べ方や効用が記載された用紙を購入者に配布した。

桃の購入者は「『津軽の桃』を販売すると聞いて来た。まだ食べたことがないので楽しみ」と笑顔で話した。

倉内会長は「市からのお誘いがあり合同で行った。即売会は消費者の皆様へ直接おいしさを伝えることができる貴重な場所。今後も『津軽の桃』のPR活動に力を入れていきたい」と話した。



対面販売をする倉内会長（左）



「川中島白桃」を収穫する今井部会長

仕 上 り 良 好

～桃主力品種「川中島白桃」収穫最盛期～

当J A管内で桃の主力品種「川中島白桃」の収穫が始まった。当J Aでは、ロゴマークの商標登録や地域団体商標登録で「津軽の桃」のブランド力向上を目指している。

津軽もも生産部会の今井昇部会長は9月3日、色づいた桃を収穫した。「干ばつの影響で小玉傾向ではあるが、糖度が高くおいしい桃になった。桃を待っている消費者のためにも適期収穫に努めたい」と話した。

「川中島白桃」の収穫は9月中旬まで行われ、3万2500箱（1箱5キロ）の出荷を目指す。

1日18ト 続々と入庫

～ミニトマト出荷最盛期～

7月下旬にミニトマトの出荷が最盛期を迎え、平賀園芸センターに続々とミニトマトが運び込まれた。

同センターでは、生産者が個人選別したミニトマトをパック（1パック150個や200個）詰めや3キロバラ詰めにしたものを関東・中京市場や関西市場など11カ所の市場へ出荷している。8月上旬には1日18トが入庫し、J A職員らは出荷業務に追われた。

販売を担当する谷川進主任は「全国的にミニトマトの作付面積が増加している中、市場や仲卸業者との情報交換を密にし、要望に応じて信頼関係をより一層強固に築き、産地の確立と有利販売につなげていきたい」と意気込む。

当J Aでは令和元年の作付けは昨年より1.7割多い16.7割、生産者は新規作付者10人を含む152人。11月末までに1032トの出荷を計画する。



ミニトマトを出荷する生産者